

はじめに

現在、日常的に行われている輸液療法は、20世紀になり大きく進歩しました。その背景にあったものは、発展途上国での貧困や感染症、さらには戦争で負傷した人の体液量の減少を克服することでした。その目的通り輸液が劇的な効果を発揮し、命を救われた人もたくさんいました。そのようなこともあり、静脈内持続注射（点滴）を行うことは「リングルをうつ」とも表現され、体調を整えることの代名詞にもなっています。

第二次世界大戦後から、ヒトの体液量の分布、電解質濃度の測定、輸液製剤の開発、投与方法などが順次確立されてきました。そして1977年頃からプラスチックバッグの開発ともあいまって中心静脈栄養法が普及しました。その概念の延長線上に臨床栄養学があり、現在の nutrition support team (NST) にもつながっています。

そのようななかで、たくさんの有益な計算式が報告されてきました。しかし私自身、それらの式を見るたびに、「こんな式を覚えられる訳がない」という気持ちになり、それ以上の思考を停止してしまうことが多かったのです。自分自身の手で実際に計算する人はごく少数派なのですが、最新のテキストでも、それらの公式が呪文のように羅列されています。

コンピューター、電子カルテ、PDA、携帯電話などが普及している現在、数字を入力するだけで容易に輸液の必要量、輸液内容、投与速度が得られれば、輸液をいっそう安全に行うことができるようになります。数式を覚えることが重要なのではなく、適切に輸液ができることが肝心なのです。本書は、簡便なソフト「ラクラク輸液計算 アシカル（アシスト・カルキュレーション）くん」を実際に使用しながら輸液の概念をマスターすることを目的としています。必要量を推測し、輸液製剤を選択し、投与後の値を予測して、さらに結果によって補正をくり返すことがスキルアップの要点になります。ぜひ、皆さん「水の達人」をめざしてがんばってください。

平成 22 年 6 月（長久手古戦場から）

今井裕一